

## 開催にあたって

日本生命財団は昭和54年に人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資することを願って、日本生命により設立されました。

設立以来、助成の柱のひとつとして、「人間活動と環境保全との調和に関する研究」をテーマとして、環境問題に関する研究助成を行っております。毎年実施してきた研究助成は、これまでに**36回、累計で1091件、助成総額26億5200万円**に達しています。

当財団は、これらの研究がさらに進展し研究者間の交流や情報交換が円滑に行われることを願い、併せてテーマに関心を持たれる方々の意見交換の場を提供するため、「助成研究ワークショップ」を開催いたしておりますが、このワークショップも今回で30回目を迎えることとなりました。

今回のワークショップでは、「**人間活動と環境保全との調和に関する研究—環境保全・再生における都市と農山村の役割、流域を中心とする環境保全・再生、自然災害と環境保全—**」を募集課題とする学際的総合研究に採択された研究チームから、その研究成果をご報告いただきます。

水は生態系全ての相互作用に関わっており、私たちの生活はもちろんのこと生命活動とは切り離せないものです。今回取り上げる「流域」は、森林から沿岸海域まで広い範囲に及びますが、上流から下流・沿岸海域にいたる様々な地域において、自然と人間活動の関係は多くの課題を有しています。流域における健全な水循環やそれに伴う生態系等の維持・保全を持続可能なものとしていくことが求められています。

今回の研究は、「北海道東部・風蓮川流域における流域保全対策が草地・沿岸域双方の生産活動に与える影響—森里川海の物質の循環の環・地域住民の環の再生をめざして—」と題したテーマのもとに、北海道東部の風蓮川流域を対象として調査・研究を進めてきたものです。流域の現状把握とその評価、および将来動向の予測を踏まえ、流域内での住民意識の違いや上下流間の最近の連携の動きといった点にも目を配りながら、当該流域の生態系サービス機能の再生を図るとともに、第一次産業と流域の環境保全が共存しうる道を探ろうとするものです。

まず、代表研究者である北海道立総合研究機構林業試験場の長坂主査から研究の全体概要について説明いただいた後、各研究者から研究成果を発表していただきます。その後、研究チーム全員が参加して総合討論を行います。

このワークショップの開催が、第一次産業と環境保全の両立に向けた取組みの一助となり、さらには「**自然環境と調和した社会の実現**」のために解決すべき課題に対する認識・理解が進み、これからの環境・地域・社会の再生・保全に向けた活動を推進していく契機となることを強く願っています。

公益財団法人 日本生命財団  
公益財団法人 ニッセイ緑の財団  
「森里川海の循環再生」研究会